

単なる言葉の虐めでも、これからは次の人に
そういうことをさせないと決心したの。私は
誰もがその人なりの魅力を持っていると信じ
ているよ」

ノラは^{すなお}素直に告白した。それはノラの心の中
の大きな傷だった。

「ノラもすごく苦勞したんだね！」

セレナはその痛みを理解した。

「ほら！虹だよ！」

ノラは、そう遠くない所にある^{なないろ}七色の光を指
差して叫んだ。

雨が止んだばかりで、太陽は雲を押し分け、

